平成31年度　呉市立下蒲刈中学校　学校経営について

平成31年４月１日
校長　柿林　浩彦

１　「今」求められていること

国・県の動向は・・・新学習指導要領・学びの変革・業務改善・働き方改革　など
地域との関係は・・・歴史・伝統・継承・地域とつながる　など
下蒲刈中学校は・・・地域貢献・グローバル・志　など

２　校訓　　「自主　自律」

・自主…自分でやろうと思って行動すること。
・自律…自分で判断して行動し，その行動に責任をもつこと

３　学校教育目標　「夢の実現に向け，粘り強く取り組む生徒の育成」

・日々の教育活動とキャリア教育を関連付け，将来に展望をもたせ，何事に対しても自主的に，積極的に取り組む生徒を育成する。

４　ミッション　「この町を愛し，将来は社会に貢献できる人間になるための基礎の育成」

５　ビジョン　「閉校後も，地域のシンボルとして培ってきた歴史を継承する」

・めざす生徒像　「将来の目標を持って，粘り強く取り組む生徒」
・めざす学校像　「教育目標の実現に向けて協働する学校」
　「保護者・地域から信頼される学校」
・めざす教職員像　「時代の変化に対応する教職員」

６　研究主題（小中一貫教育）　「主体的に学び，表現できる（児童）生徒の育成」

新しい学習指導要領等に向けた６つの改善点
①「何ができるようになるか」（育成を目指す資質・能力）
②「何を学ぶか」（教科等を学ぶ意義と，教科等間・学校段階間のつながりを踏まえた教育課程の編成）
③「どのように学ぶか」（各教科等の指導計画の作成と実施，学習・指導の改善・充実）
④「子ども一人一人の発達をどのように支援するか」（子供の発達を踏まえた指導）
⑤「何が身に付いたか」（学習評価の充実）
⑥「実施するために何が必要か」（学習指導要領等の理念を実現するために必要な方策）

７　現状分析（強みと弱み）を踏まえた今後の取組について

とびしま４島の３中学校で行っている教師の授業力向上を目的とした「四島授業研究会」などにより，授業改善を推進している。生徒の基礎学力の向上に一定の効果は表れているが，更なる学力向上を目指したい。今後，個に応じた指導・支援も充実させるためには，小中一貫の組織的な取組を進めていくことに加え，ユニバーサルデザインや特別支援教育の視点などを取り入れる必要がある。また，固定化した人間関係の中で学校生活を送っているため，自分の思いを相手に上手く伝えることが苦手であり，コミュニケーションを高める取組を，授業だけでなく，学校の教育活動全体に仕組みたい。

物事に真面目に取り組む生徒が多いため，地域人材を招聘した体験活動などを工夫することによって，自分に自信をもち自己有用感を高めることが期待できる。

また，体力・運動能力については，特に全身持久力に課題がある。生徒の通学方法は徒歩かバス通学であり，運動する機会はほぼ学校生活に限られている。そのため，体育の授業や部活動において，トレーニングを効果的に行うなど課題解決のための継続した取組が必要である。

８　現状分析（強みと弱み）を踏まえた年間目標及び達成の手立て【校長の業績評価（自己申告）書から】

（所属における組織の目標のうち「年間目標」と関連する事項）	（昨年度の成果と課題）
学校教育目標「夢の実現に向け，粘り強く取り組む生徒の育成」を達成するため，次の３つの事項を重点とする。 ①資質・能力を育成し，確かな学力を身に付けさせ，自尊感情や自己有用感を向上させる。（学力向上，信頼される学校づくり） ②新しい学習指導要領を見据えた教育課程の編成と組織的かつ効果的な教育活動を実施する。（組織の構築，教職員のモチベーション） ③保護者・地域から更に信頼される学校をつくる。（教職員の資質・能力の向上，服務規律の確保，不祥事防止）	○小中合同研究授業会や各学期１回の授業交流週間などを設け，互いに授業参観するなど，「考える授業づくり」に資する取組を継続することができた。 ○生徒朝会や小中合同行事など生徒自ら企画・運営する機会を設けたり，一人一人の生徒の活動が分かる掲示物を充実させたりするなど，生徒の主体性を伸ばしていく取組を継続している。 ●全国学力・学習状況調査では，国語科・数学科はＡ・Ｂ問題ともに全国平均に及ばす，確かな学力の定着が求められる。 ●仲間と切磋琢磨する意欲や自尊感情・自己有用感がやや低いため，それらを高める教育活動の創造や改善が必要である。

重	年間目標	達成の手立て（上半期）
１	学校教育目標を達成するため，資質・能力を育成し，学習意欲と学力の向上を図る取組などを組織的に取り組む。（先生の指導で意欲を高めている及び基礎的な学力を身に付けていると感じる保護者80%以上を目指す。） 【学校経営】	・研修や授業交流などを充実し，授業改善を推進する。 ・個に応じた指導や補充的な学習指導の充実を図る。 ・自尊感情や自己有用感を向上させる異学年交流の充実を図る。
２	令和３年度全面実施の学習指導要領を見据えた教育課程を編成し，各教育活動の目的を全教職員で共有し，組織的かつ効果的に取り組む。（子どもと向き合う時間が確保されていると感じる教職員80%以上を目指す。） 【学校管理運営】	・各主任層と密に連携することによって，学習指導要領の趣旨や各教育活動の目的の理解を深める。 ・教職員のアイデアなどを活用し，会議及び行事の精選・焦点化・改善など働き方改革に資する取組を推進する。
３	教職員の資質・能力を高めるとともに，服務規律を確保し，不祥事を防止する。（下蒲刈中学校の教育は信頼できると感じる保護者80%以上を目指す。） 【教職員人事管理】	・企画委員会，校内研修及び個人面談などを活用し，効果的に協議する場を設ける。 ・１日１回以上授業観察を行うとともに，校長通信を活用した研修を実施する。